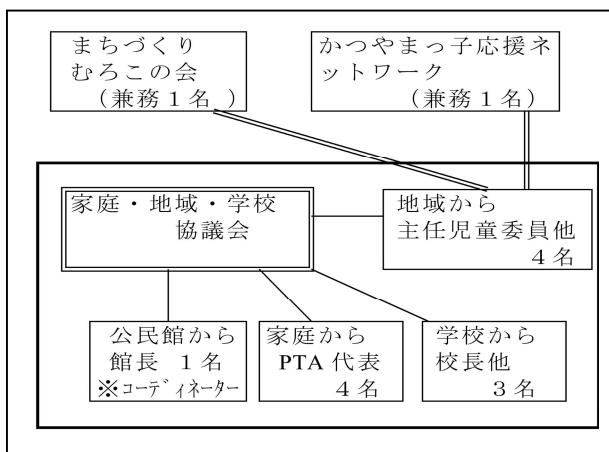


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

○開催日程 (予定)

6月12日(水) 第1回協議会
・今年度の学校取組について
・1学期の取組状況および
1学期の学校評価について

2月12日(水) 第2回協議会
・2学期の学校評価について
・家庭、地域と学校の連携
について

(3) 協議会における成果と課題

学校の取組について、地域目線からご意見をいただくことができ、大変貴重な機会となっている。地域との結びつきが大変強い地区であり、地域の方と学校とが共に歩むというスタンスで会を運営することができた。その中で、朝の交通量が多く見守りの必要がある地点をご指摘いただき、公民館のまちづくり協議会と連携して見守り活動を強化できたという事例もあった。

「学校が地域の核であることは間違いないが、連携の中で先生方に担ってもらう部分が多くなると単なる負担になってしまうので、地域としても配慮すべきだ」という意見が応援ネットワークの方から出された。学校に寄り添ってくださる、ありがたいご意見であった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域について学び、体験活動を行い、学習の成果を地域に発信することで、ふるさと村岡町への愛着と誇りをもつ児童を育てる。

(2) 活動の実際

①地域の方から稲作を教わろう

5年生は総合的な学習の時間でふるさと学習を行い、テーマを「守りつごう 村岡の自然」としている。その中で昔から村岡地区は豊かな自然に支えられた農業が盛んであることを知り、近所の農家さんに交渉して稲作体験をさせていただいた。ただ、児童たちはお米作りに関する知識や経験が全くないため、農家の方やJAの方にゲストティーチャーとして来ていただき、田植えや稲刈り、そして昔ながらの工程である「はさがけ」「脱穀・選別」にも挑戦した。その際、社会科で学んだ昔ながらの農機具を使うことを発案し、「千歯こき」や「とうみ」を実際に借りてきて、それらで農作業を行うという体験活動を行った。なお、この体験は米作りの方法を知るだけでなく、食について考える大変良い機会となった。



(様式3)

学んだことは、児童のアイデアで寸劇やクイズ風にまとめ、村岡町文化祭で地域の方々に向けて発表した。同時に、収穫したお米で地域のお弁当屋さんに炊き込みご飯を作ってもらい、文化祭で「むろこ飯」という名前で保護者や地域の方々に食べていただいた。

②地域の方々と一緒に公園美化活動しよう

児童たちも地域貢献として何かしたいということで、5、6年生が校区のホワイトザウルス広場（恐竜博物館近くの公園）にある芝桜の草取りを行った。この公園には巨大な白い恐竜オブジェがあるため、休日になると恐竜博物館にいらした観光客の方々がたくさん訪れている。勝山市を訪れる皆さんに気持ちよく公園を使ってもらいたい、という児童の気持ちが込められた活動である。



その際、自分たち単独の活動とはせず、地域の老人会の方々と連携して一緒になって活動をした。短い時間ではあるが地域のために活動することができ、同時に地域の方々とふれあう良い機会となった。草取りをした後は芝桜がきれいに咲き、見るたびに成就感と地域を愛する気持ちが深まる活動であった。

なお、この活動をただの行事としないためにも、地域の老人会との関わりは年間を通して継続した。学年ごとの課題に応じて、昔遊びを教えていただく会やふれあいサロンなどの交流学習へとつなげ、つながりやその中での学びを継続した。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターは村岡公民館長にお願いしている。実際に学校との関わりが多い「まちづくりむろこの会」や「かつやまっ子応援ネットワーク」などの各種団体は村岡公民館で会議などの活動をしているため、公民館長がその仲立ちとなって連絡調整役をしやすい環境にある。それにより、大変スムーズに連携することができた。

(4) 特に工夫した事項

直接公民館に出向いて担当の方と話すなど、公民館との連絡を密にし、顔の見える関係を心がけた。同時に、学校と地域とが「協働する」という関係性を重視しながら活動した。その結果、これまで以上に各種団体の方々との距離感や実際の連携が深まった。

また、学校としては、地域と共に進める「ふるさと学習」や「環境学習」が単発的なイベントで終わらないよう、ESDの視点を取り入れた教科横断的な学習になるよう工夫した。学年ごとに、自分たちの学習活動がSDGsのどの目標に合致しているかを表に書き出すなどしてつながりを明らかにし、体験学習の機会を生かすよう工夫した。

(5) 成果と課題

地域の各種団体等と連携し、環境保全活動など村岡地区でしか体験できない学びを深めることができ、児童のふるさとに対する愛着を深めることができた。また、文化祭などの地域行事での発表および運営活動の体験を通して、児童は目標や目的を持ち、仲間と協力して活動することの楽しさを知ることができた。

一方、文化祭などの地域行事と学校との一体化が進むと、役割を学校にお願いされることも増え、教職員や児童の多忙化に繋がるのが懸念される。企画段階からの団体間での適正な連携が望まれる。